

令和8年度 事務事業評価シート（1）

〔 令和7年度事務事業 〕

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	普及広報事業				事業番号	008-061	
担当部署名	文化観光局	局	歴史遺産活用部	部	学芸課	課	

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画2025	施策との関連	有・無	戦略	1.堺の特色ある歴史文化 ～Legacy～	施策	(3)類稀な堺の歴史文化資源を活かした戦略的な観光誘客の推進	
			有	取組の方向性	①堺の歴史文化資源を活用した滞在、消費拡大促進			
		寄与するKPI	有・無	指標名	大仙公園エリアへの来訪者数			
	堺市SDGs未来都市計画2021-2025	施策との関連	有・無	現状値	29.4万人(2019年度)	目標値	60.0万人(2025年度)	
			有	ゴール	ゴール(8)働きがいも経済成長も	ターゲット	8.9	
		寄与するKPI	有・無	取組	茶の湯や地域の祭り、文化財などの歴史文化の保全・魅力発信			
			有・無	指標名	—			
			無	現状値	—	目標値	—	

2	関連計画	—		
3	事業開始年度	昭和 55 年度	点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度
4	実施根拠	博物館法・文化財保護法		

事業の概要

5	事業の実施主体	堺市博物館					
6	事業の対象	市民及び本市への来訪者				対象数	単位
						—	—
7	事業の目的	堺の歴史・文化の発信拠点として堺市博物館の魅力を広報して来館を促し、堺の歴史・文化・伝統を知ってもらうことで、市民の郷土愛の醸成を図ることを目的とする。					
8	事業内容	○普及事業 ・歴史史料に興味を持つ方に対し、古文書講習会を実施 ・小・中学生向けの体験学習会を開催 ・夏休み期間中に未就学児と小・中学生及び保護者等を対象としたミュージアム・パス＆スタンプラリーを実施 ・博物館ボランティア制度の運営 ・ミュージアムグッズを作成 ・常設展示音声ガイドアプリの運用管理 ○広報事業 ・SNSを用いたPR活動 ・企画展やイベントごとに広報関係事務および広告事業を実施					
	※国・府の基準より上回って実施した内容	—					
9	主な支出先	委託業務の受注者					
10	公民連携・協働事業	—					

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標	単位		実績		目標	目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
	入館者数	人	目標値	140,000	155,000	160,000	193,000
			実績値	130,743	127,000		
			達成率	93%	82%		
	当該指標を選定した理由	広報活動を行い入館者数が増加することで、世界遺産エリアへの来訪者数の増加に貢献できるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	令和7年度が12ヵ月開館であったとして入館者数を160,000人と試算。大阪・関西万博の影響により前年同月比が大幅に伸びた令和7年度の推定年間人数の維持を目標とした。					
12	活動指標	単位		実績		目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	体験学習会・古文書講習会の開催回数	回	目標値	18	18	18	
			実績値	21	18		
			達成率	117%	100%		
	当該指標を選定した理由	堺の歴史・文化に触れていただくため、また、入館者数の増加に繋がることから、休日・祝日等を中心に体験学習会や古文書講習会を開催している。					
	目標値の設定根拠・算出方法	休日・祝日等を中心とした日程で、現状の職員数で実施可能な回数を設定。					

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名		普及広報事業				事業番号		008-061				
Ⅲ. 投入量												
事業コスト												
※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）												
13	財 源 内 訳	項 目	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度			
			決算		決算		当初予算		当初予算			
		事業費（a）	3,824		4,485		8,998		7,263		6,147	
		国支出金	0		0		0		0		0	
		府支出金	0		0		0		0		0	
		市債	0		0		0		0		0	
		その他（基金繰入金、物品売払収入）	1,025		1,000		4,080		0		500	
		受益者負担金(使用料、手数料等)	0		0		0		0		0	
		一般財源	2,799		3,485		4,918		7,263		5,647	
		14	人件費（b）	18,990		18,990		19,440		19,440		20,080
15	年間経費（c）=(a)+(b)	22,814		23,475		28,438		26,703		26,227		
事業費の内訳												
（単位：千円）												
16	事 業 費 内 訳	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	
		報償費	R7	決算	94	94	ミュージアムパス作成配布業務	R7	決算	764	764	
			R8	予算	80	80		R8	予算	500	500	
		旅費	R7	決算	9	9	冊子等作製業務	R7	決算	0	0	
			R8	予算	116	116		R8	予算	700	200	
		需用費	R7	決算	488	488	ミュージアムグッズ作製業務	R7	決算	1,954	1,954	
			R8	予算	546	546		R8	予算	1,500	1,500	
		広告料	R7	決算	1,500	1,500	各業務委託料	R7	決算	1,997	1,997	
			R8	予算	1,500	1,500		R8	予算	500	500	
		その他役務費	R7	決算	83	83	使用料及び賃借料	R7	決算	374	374	
			R8	予算	175	175		R8	予算	530	530	
		Ⅳ. 事業の効率性										
		単位当たり経費										
		17	区 分	単位			令和6年度		令和7年度			
①	年間の入館者数（博物館＋利品の杜）※茶室除く			人		338,121		366,523				
②	上記①にかかる年間経費			千円		23,475		26,703				
③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）			円/単位		69		73				
算出についての説明等												
Ⅴ. 評価												
費用対効果に係る所見												
18	令和7年度は、広告料・ミュージアムグッズ作成の予算拡大があり、加えて音声ガイドアプリ構築業務（各種委託業務）が加わったことから、年間経費が増加した。年間の入館者数も増加しており、PR強化と博物館魅力向上の結果に繋がったといえる。一方、単位当たり経費は微増し、年度内の入館者数を基準とする費用対効果は下がっているが、博物館の休館期間（11月3日～3月31日）を経て4月再開館時のPRも令和7年度中に実施したことを考慮すると、令和8年度4月の入館者数は増加し（令和7年度比122%）良好な効果を発揮しているといえる。											
	KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）											
19	普及事業では、市内外の幼児から小中学生を対象とした体験学習会を17回、歴史史料に興味を持つ方を対象とした古文書講習会を1回開催した。内容については楽しく学べるよう、常に工夫・改善を凝らして実施することで、堺の歴史文化に興味、関心を持ってもらうことができ、体験学習会等を通じた家庭内への広がりにより普段博物館を訪れることのない層へのアプローチにも繋がった。また、休館期間中には、小学校へ出張講座（市内37校）を行うことで、遠足等での来館ができない期間についても継続的な学校との連携を維持した。											
	広報事業では、企画展ごとに、新聞広告やデジタルサイネージ、Instagram広告や郵便局へのチラシ配架などの民間の広告会社を介したPRや、新たな広報ツールとしてInstagramでの発信を開始したことで入館者数の増加に繋がった。体験学習会・ミュージアムパスなどの小中学生を対象とする事業については、市内小中学校へチラシ等印刷物の配布、SNS等での発信、校外学習等で来館した小中学生団体への案内などを行って、多くの方に参加いただき、博物館入館者数および世界遺産エリアへの来訪者数の増加に寄与した。											
20	令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）											
	必要性 ■ 高い □ 低い 有効性 ■ 高い □ 低い	普及事業で堺の歴史・文化を発信し、広報事業によって市内外のより多くの方に博物館そのものや企画展・イベントを知っていただくことで、入館者数および世界遺産エリアへの来訪者数の増加に繋げることができた。堺市基本計画2030のKPI（世界遺産・大仙公園エリア、環濠エリア、堺東駅及び堺駅・堺旧港周辺の来訪者数）に対しても有効性のある事業であり、今後も継続していく必要がある。										